保助看のページ

～2年目になって～

看護師

ターミナル期にある患者さんとご家族への関わりを通して

武蔵野赤十字病院　**玻名城 静香**

精神的なケアの重要性を感じた1年間

臨床に出てから1年間を通して、患者さんの治療や身体的な異常がないかを確認するのはもちろんですが、それだけではなく、ご家族を含めた精神的なケアを行うことの重要性を知ることができました。そのことを特に感じたのが、ターミナル期の患者さんを受け持ったときのことでした。

患者さんは入院当初、最低限の生活は自立して行えるほどのADLで、ご家族が毎日面会に来られ、患者さんの生活の援助を積極的に行っていました。入院日数が経過し、患者さんのADLが急激に低下、意識もほとんどない状態まで悪化していくなか、ご家族もずっとそばで見守っていました。そういった中で、どのようなケアが患者さんやご家族の希望に添うことができるのかを考え、とても悩みました。

毎日大変ですが、充実しています

先輩看護師と相談しながらケア内容を考え、これまでご家族が毎日面会に来られ、患者さんのケアに参加していたのを思い出しました。患者さんは意識レベルが低下し、ベッド上でほとんど動かなくなった際、看護師と共に洗髪や足浴・手浴を行うことをご家族に提案すると、「できるなら私も一緒にやりたいです」との発言が聞かれました。実際に看護師と共に実施し、ご家族は「気持ちいい。聞こえるかしら」と穏やかに声をかけながらケアを行いました。

その数日後、患者さんは息を引き取られ、その際に付き添っていたご家族も一緒にエンゼルケアに入り、出棺まで付き添われました。その後、看護師がご家族を見送る際、「髪や足を洗うのを一緒にさせてもらってありがとうございます。何かできたことがうれしかったです。本当によくしていただきました。お母さんもここに入院してよかったと思います」という発言が穏やかな表情で聞かれました。それを聞き、私が行ったケアが可能な範囲でご家族の精神的なケアにつながったと感じ、うれしく思いました。

患者さんやご家族の望む看護の提供を目指す

ターミナル期にある患者さん、そのご家族の関係性や死に対する受け入れ状態は様々だと思います。これからも、どのようなケアを行うことで患者さんやそのご家族が望む最期を迎えることができるのかを考え、看護を提供していきたいと思います。

公益社団法人
東京都看護協会
http://www.tna.or.jp

Nursing in TOKYO

会報「看護とうきょう」

Vol.127
2018.August

所蔵先「日本赤十字看護大学史料室」

看護師 玉木忍い
(1874 ～ 1957)
第 4 回フローレンス・
ナイチンゲール記章受章

特集

平成 30 年度 通常総会
特別講演

大切にしたい自分の体

―2 度の子宮がんを経験して

原 千晶さん